理学療法科

科長　塩田　直隆

人員体制

2022 年は理学療法士 32 名体制でスタートし、一般・地域包括ケア病棟には 11 名、回復期リハ病棟には 17 名、外来には 4 名を配置しリハビリサービスを提供した。

実績

365 日同じ訓練量を提供できる体制に努めてきたが、昨年同様に新型コロナウィルスの影響により入院・外来ともに患者数が減少した。また、実施単位数は月毎にばらつきを認めた(図 1)。内訳では一般・回復期病棟で患者一人当たりの介入単位はそれぞれ平均 2.4 単位と 3.0 単位のサービスを提供(図 2)。地域包括ケア病棟では患者一人当たりの介入は平均 2.2 単位のサービス提供であった(図 3)。外来については専属スタッフを 4 名配置し 1 ヶ月平均 620 名の患者さんにリハビリを提供することができた(図 4)。結果、昨年と比べ入院は 4576 単位、外来は 702 単位の減少となった。入院のリハビリ対象者の年齢別では 65 歳以上が 77.5%を占め、そのうちの 75 歳が 62.7%であり、90 歳以上は 7.8%を占めており高齢者の入院が多くなっている(図 5)。入院患者理学療法施行による診断内訳は図 6 に示す通りである。

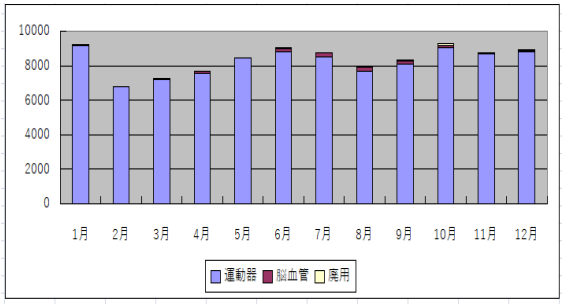

図 1　リハビリ月別実施単位数

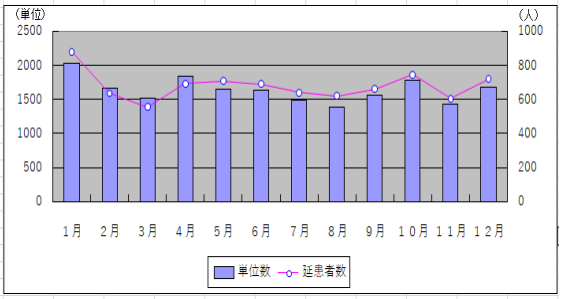

図 2　一般・回復期病棟実施単位数と延患者数

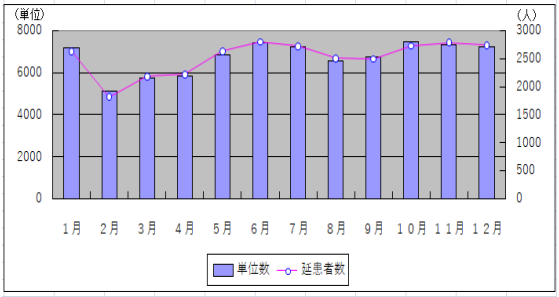

図 3　地域包括ケア病棟実施単位数と延患者数

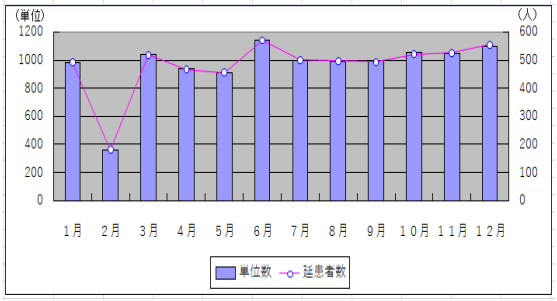

図 4　外来リハ実施単位数と延患者数

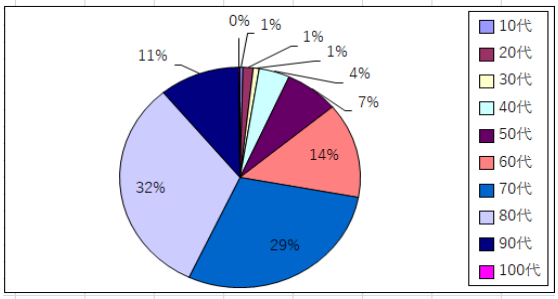

図 5 年齢別内訳

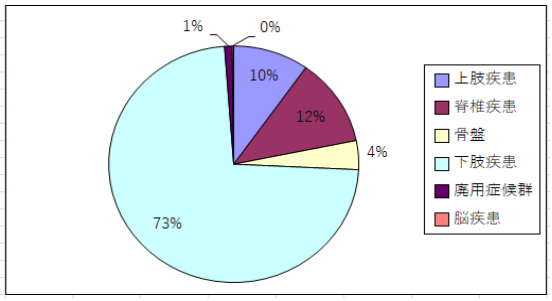

図 6 疾患別内訳

2023 年度の方針

新たな病院編成に向けた管理体制の構築とともに業務整理を行い効率的かつ安定したリハビリテーションサービスを行っていく。教育面では個人のキャリア開発をクリニカルラダーを使用し知識や技術を共有しながら取り組んでいく。また。院内での勉強会も行いながら全体のスキルアップを図っていく。感染対策においてはコロナ感染が完全終息宣言されるまでは引き続き行い、安心・安全な医療を提供していく。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
頚髄損傷後の慢性疼痛に対し運動療法と痛み日記の併用が奏功した一症例	百田 佐智 高芝 潤　田村　咲子 塩田 直隆	第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会	2022 年 9 月 24 日～9 月 25 日

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ